

精神障害者の国際的な自助活動のリーダー養成研修

NPO 法人 ある

〒603-8047 京都府京都市北区上賀茂本山 258 番地 21

助成事業の概要

本申請事業の目的は、集合研修の開催を通じて精神障害者の自助活動を支援することで市民社会による精神障害者への社会的な承認を促し、差別や偏見の除去に寄与していくことである。

アジア太平洋地域における障害者の権利の実現のため国連「第三次アジア太平洋障害者の10年」が開始された。この枠組みを用いて精神障害者の権利を実現していくためには、精神障害者同士が国を超えて交流し、互いの文化や制度について情報をシェアしつつ、連帯の中で具体的な行動をしていく必要がある。そこでアジア地域の精神障害者がそれぞれの抱えている問題の共通点を見出して国を超えた取り組みを可能としていくために相互交流を通じた集合研修を実施する。今日、精神障害者の自助活動のリーダー養成は、事業所に配置するためのピアサポーターに係るものが大部分を占める。そのため、国際的な連帯を牽引していきけるリーダーの養成など、“精神障害者本人による自律的な取り組み”という意味での自助活動を担う人材育成の取り組みはほとんどされていないため、本研修事業は独創的でパイロット性のある取り組みである。2017年11月22日～23日、立命館大学大阪茨木校舎で開催した。アジア11カ国から講師を招聘し、述べ161人の参加を得て成功裏に終えた。

事業の成果

【事業の内容】

◆22日(水) 13時～16時(参加人数:約20名)

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

「精神障害者のピアサポートに関する各国からの報告」

◇13:00～ Chintha (Sri Lanka) ◇13:30～ Tien and Sissy (Taiwan) ◇13:50 Linus and Frank (China) ◇14:30～ Vincent and Susan (HongKong) ◇14:50～15:10 Waqar (Pakistan) ◇15:10～ Patcharin and Win (Thailand) ◇15:30～ 質疑応答

◆22日(水)18時半～21時(参加人数:約82名)

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

ワークショップ「オープンダイアログ——アジアでのひろがり・ふくらみ、そして新たな対話を聴く！」

◇18:30 開会の挨拶 ◇18:40 講演——インドの取り組み（講師：Bhargavi Davar・インド）◇

19:00 ワークショップ（楽器を使ったオープンダイアログの体験）◇20:30 意見交換 ◇

21:00 閉会の挨拶

◆23日(木) 13時～18時(参加人数:約69名)

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

公開学習会「アジアにおけるピアサポート実践とシステム」

◇13:00 挨拶 ◇13:10 報告——藤井千代（国立精神神経研究センター）、岡垣さとみ（外務省主

席研究員) ◇14:00 講演「アジアにおけるピアサポート実践」: Bhargavi Daver (TCI-Asia)
◇15:00 指定発言: Yeni Rosa Damayanti (インドネシア)・Patcharin and Wiriya (タイ) ◇16:00 フロア発言 ◇17:00 閉会 ◇18:00 懇親会

【事業の成果】

本集合研修によって自助活動を促進することができた。とくに、アジア地域における精神障害者の差別、偏見の除去と社会的な承認の促進と、アジア地域において異なる文化を相互に理解した上で共通の問題の解決に向かって精神障害者同士の連帯が強化された。

また、本集合研修を契機として国際的な活動を牽引するリーダーを育成するための研修カリキュラムを作成した。SDGs、アジア太平洋障害者の10年、障害者権利条約、実際のアジアの精神障害者の状況と取り組みを中心に精神障害者による国際協力についてまとめた。

成果の広報・公表

成果の普及方法として、まずは報告書を刊行して国及び地方公共団体、障害者団体、その他関係団体等に配布した。メッセージをいただいた国会議員等には、簡易版の報告書を配布した。ウェブサイト上に報告を載せるべくテープ起こし作業をしているが、時間の関係で本事業終了後の引き続きの課題とされる見込みである。ESCAPの第三次アジア太平洋障害者の10年中間評価・閣僚級政府間会議に日本の精神障害者リーダーを2名出席させ、アジア諸国の精神障害者が抱えている貧困や人権の問題について政府や市民社会組織に広く理解を求めめるために発言をした。とくに東南アジアの多くの国では、精神障害者が屋外に設置された1メートル四方にも満たない檻の中に閉

じ込められており、現地のリーダーは檻から仲間を外に出すための活動を展開している。一般的に医療制度の整備によって檻から病院に隔離場所が変更されるのだが、次いで精神病院への長期入院など社会的入院の問題につながる点で問題が指摘されて久しい旨を発言し、本事業の取り組みの意義を紹介した。

今後の展開

本事業により体系化された研修コンテンツを活用して、平成30年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業（2分の1補助金）のピアサポート研修の枠を活用しながら国際的な活動を牽引できるリーダーの育成を各都道府県の当事者会によびかけて進めていく。

また、日本政府は、アジアの国々に積極的に開発援助をおこなってきたが、こうしたアジアの当事者活動（ピアサポート）の取り組みに対しては、開発の援助などをしてこなかった。開発途上国への援助では、確実に現地の障害者団体に予算が配分されるような仕組みになっていないため、障害者団体への取り組みにほとんど予算が付けられておらず、医療者にばかり予算が付けられている。今後は、持続可能な開発目標（SDGs）に障害が入ったこと、第四次障害者基本計画などを根拠にして障害当事者による国際協力の取り組みに対して、積極的に予算を付ける仕組みを考案していく。